

やまがた

元氣

農の風

NO.18

たけだ かずや
山形県寒河江市 武田 和也 さん親元就農3年目
鉄骨ハウス3棟(約4000㎡)で
鉢物や花壇苗など年間約50種類
20万ポットを栽培しています。

就農のきっかけをお聞かせください。



自分の仕事に対するモットーは

『先人を想い 後世に継ぐ』

自分は祖父、父の農業に取り組む姿を見て“かっこいい”と思い農林大学校で花き経営学科を専攻し、卒業後、花き鉢物園芸農家の3代目として親元就農しました。

今の自分には実力がないので、父が祖父から盗んだように“自分は父から栽培技術・経営方針等を盗むことで精一杯”です。日々、落ち込むこともありますが、くじけず歩み続けていきます。



武田 和也 さん



現在、暑いハウスの中で、冬の出荷に向けてシクラメンのポット苗の栽培管理を行っています。

農業の魅力は
どのようなところですか。

自分が咲かせたきれいな花が、購入者の心を癒やしてくれることを考えながら“日々丁寧な栽培管理を行えば、花も応えてくれる”ことがうれしいです。

新たな試みとして、JAからの依頼で花育活動の一環として「寄せ植え教室」や「花植え教室」の講師を始めたことで、各種団体の方と意見交換する機会が増え、花に関する新たな発見や刺激を受け、情報発信にもつながっています。

冬を代表する花『シクラメン』の鉢物
[画像提供：武田和也さん]今後の目標や将来展望を
お聞かせください。

地元に根ざし、農業をとおして地域に貢献していきたいです。また、寒河江市を生かした作物の栽培を行いながら寒河江市をPRしていきたいです。

これから3代目として農業経営を行っていく中で、農業者同士・他業種の方々との話し合い(意見交換)から“自分の糧(力)になることを探し”これから実践していく農業経営に取り入れていきたいです。

クリスマスを彩る観葉植物『ポインセチア』の鉢物
[画像提供：武田和也さん]